

国 語

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、日本の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うこと。	【書くこと】伝わりやすい文章を構成し、必要に応じて推敲を重ねることでより良い文章を目指していくこと。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	ア 小学校段階での言語知識があまりなく、文章の中で漢字を使うことが難しい生徒もいる。 イ 文章を記述する際に根拠をおろそかにしてしまい、文の意図が伝わりにくくなってしまいう生徒が多い。	ア 授業の中で言語知識や漢字に取り組む時間を設け、知識の定着を図る。 イ 文章を記述する際には「伝えたいこと」と「根拠」を必ず意識するようにさせ、自然とそれが達成できるような授業計画を行う。	・通年	
第2学年	ア 文章を書いたり入力したりする力はあるが、じっくり取り組むことが苦手な生徒もいる。 イ 感想文や課題作文を書く力はあるが、論理的な文章を作成する力に課題がある。	ア 身についた力を活用するために、まずは短い文章から少しずつ取り組ませていく。 イ 説明文、論説文に慣れ、順序立てて考えることで、分かりやすく、正確に伝える文章を書けるようにする。	・通年	
第3学年	ア 語彙力が乏しく、説明文の読解等において、内容が理解しきれない生徒もいる。 イ 文章を書き終えた後に、推敲の意欲がある生徒が少ない。	ア 授業で扱った説明文に出てくる言葉の意味は理解できるように、違う言葉での言い換えを生徒同士で行わせる。 イ 書いた文章を互いに読み合い、推敲をする活動を取り入れ、自分でも推敲する良さに気付かせる。	・通年	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>1年:課題作成において、生徒が必要に応じて ICT 端末を用いて情報を引き出せるようにする。【重点:個別】 2年:それぞれの教材の理解を深めるために、教科書にある二次元コードを補助資料として使う。【重点:個別】 3年:ロイノートに意見を提出し、他者の意見と比較できるようにする。【重点:協働】</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>1年:毎時間ごとに学習感想を書かせ、振り返りを促す。 2年:単元ごとに振り返りをして、苦手分野を理解し、自分の課題を考えさせる。 3年:単元ごとに振り返りをさせ、次の学びへとつなげる。</p>
--	--

